

みなみよ

都立南多摩高校(府立第四高女)同窓会あかね会広報第3号



2012年 あかね会

100周年 記念号

2012年3月31日発行

発行：都立南多摩高校同窓会・あかね会

発行者：石川 和昭

〒192-8562 東京都八王子市明神町4-20-1

都立南多摩高等学校内

連絡先電話：042(625)8325



南多摩高校同窓会 あかね会100周年記念号

あかね会100周年にあたって

南多摩高校同窓会・あかね会会長 石川和昭（昭和36年卒）



暖かな日差しに確実な春を感じる候となりました。

甚大な被害をもたらした東日本大震災から早1年、復興儘ならない被災地には一日も早い眞の春の到来が待たれます。

私は、昨年の総会で黒須前会長からバトンを引き継ぎ、微力ながら会務の遂行に努めて参りました。ここまで何とか無事に活動が出来ましたのも、偏に会員の皆様のご理解・ご協力によるものと心より感謝を申し上げます。

さて、明治41年に府立第四高女として開校した母校は、多くの有為な人材を輩出し、今年104年目の歩みを

続けています。

母校は現在、南多摩中等教育学校を併設し、今春入学する高校1年生が卒業する3年後には、この中等教育学校に発展的に統合されます。

一方、明治44年に発足した「あかね会」は、今年創設100年の節目を迎えます。母校100周年を機に事業内容を拡充し、会員相互の研修や親睦、母校支援等に力を注いでいます。母校の統合には一抹の寂しさも感じますが、このような時だからこそ100年の長きにわたり築いてきた同窓の絆を大切に、更なる本会の継続・発展に努めて参りたいと思います。

会員の皆さんのご協力を切にお願いする次第です。

5月20日(日)は「あかね会100周年記念総会」があります。【詳細は最終頁に】

特 集

100年を迎えた同窓会「あかね会」



南多摩高校同窓会「あかね会」は29,000人に及ぶ会員に支えられ、今年100周年を迎えます。この100年間に震災、戦災、母校の組織改変など幾多の困難もありましたが、母校を思う卒業生に受け継がれ、現在も活動が続けられています。

1. 同窓会設立から戦前まで

明治44年11月26日、第1期卒業生が親睦を目的として東京府立第四高等女学校同窓会を設立し、初代会長には長尾松三郎初代校長が就任。以後、終戦後の3代岩崎源兵衛会長までは校長が兼務されました。

昭和10年代に入ると「水泳の第四高女」として、日本水泳選手権大会などで度々総合優勝を遂げ、旗野富美さん(昭和19年卒)は日本記録を何度も更新しました。また、オリンピック候補選手も輩出するなど、校名は日本全国に轟きました。同窓会はこうした水泳選手を支援し、母校との一体感は一層深りました。昭和15年の日本選手権大会の優勝を祝した記念歌碑が母校に建立されており、当時を偲ぶことができます。

当時、水泳部員として活躍した内藤富美子さん(昭和20年卒)は、「在学当時の母校は水泳部の活動が目覚しく、私も水泳部員としての練習のみならず、生活の規律や人間関係など、担当の大野先生や仲間から学ぶことができました。水泳部での練習は朝練があり、全校生徒が来る前から練習に励みました。今、あかね会のお手伝いができるのも、当時鍛えた身体と同窓生との心の繋がりがあったからです。先輩、後輩の友情の深さを大切にして、いつまでもあかね会を通して皆様にお会いできることを楽しみとしています。

101年に向けて多くの新会員の方たちをお迎えできま
すよう願っています。」と話しています。



大正12年創立15周年の同窓会役員と、大正2年の同窓会報第1号

2. 戦中、戦後の同窓会活動

太平洋戦争突入とともに、学徒勤労動員令により生徒は近辺の工場に動員され、母校も軍需工場として勤労奉仕の日々が続きました。昭和20年8月2日未明、米軍

のB29による八王子空襲で校舎が焼失し、一面焼け野原になりました。戦争・敗戦という混乱の時代に、同窓会どころではなかったことでしょう。それでも、終戦の翌年、昭和21年には、新入生のためにいち早く校舎が建てられ、翌22年には全生徒が学べる平屋建て木造校舎が落成しました。

昭和25年1月、校名を都立南多摩高等学校に改称し、母校も女子校から男女共学になりました。この少し前、卒業生から初めて渡辺フミさん(明治44年卒)が第4代会長に就任し、同窓会は、ようやく動き出しました。

卒業以来、長年にわたり同窓会に携わられた大島富子さん(昭和25年卒)は、「私の人生にとって戦中・戦後の学生生活は、最も貴重な体験の一つでした。昭和20年8月、空襲で廃墟と化した校庭に、防火壁とぼつんと残った横川楳子先生の銅像の傍らに、岩崎源兵衛校長先生のお姿がありました。先生と生徒で協力して焼け跡整理に精を出しました。翌年3月、雨の中を地方巡幸でお見えになられた天皇陛下から激励のお言葉を賜り感激いたしました。多難な時代の学生生活でしたが、母校の100周年、さらにあかね会の100周年を迎えることができ嬉しく思います。また、記念事業の記念誌委員会にも携わることが出来たことで、改めて歴史の重みを実感いたしました。母校と、同窓会の伝統の灯が、いつまでも続くよう祈っております。」と話しています。

3. 高度成長期から昭和後半の同窓会活動

昭和28年の45周年には、同窓会室を校舎内に整備しました。昭和33年、50周年では、当時の池田文雄校長が、「東の空をあかね色に染める朝日を想定し、また、未来を拓く若者の燃え立つ色である“あかね色”」になぞらえ、同窓会を「あかね会」と命名しました。同窓会は、新築3階建ての本館校舎(旧西館)の時計台に時計を寄贈し、ここにあかね会室がありました。この時代、7つの支部(八王子、立川、横浜、西多摩、町田、山梨、仙台)があり、平成5年まで活動が続けられていました。

昭和42年の60周年で、同窓会は体育館・講堂の縫帳と玄関前に大石を寄贈しました。もともと女子校だった母校は、あかね会も女性パワーが健在でした。昭和50年代に入ると小川良会長(昭和3年卒)の強力なリーダーシップのもと、あかね会が独自に記念誌「写真でつづる“母校の70年”(木崎仁保子編集)」、「75周年あかね会会報誌」の冊子を発行しました。いまでは得がたい体験で綴られた貴重な写真や資料が満載で、これらを作成するのも並大抵の苦労ではなかった筈です。大島さんは「昔の写真を集めると苦労は大変でしたが、同窓生との繋がりを改めて感じました。」といいます。また、同窓会は南庭にある庭園(南光苑)の整備にも尽力しました。

4. 母校100周年記念事業

昭和後期から平成にかけて、新年会、納涼会などが行われてきましたが、なかでも毎年5月第3日曜日に開催されてきた総会では、毎回、著名人を招いて講演などが行われてきました。そして平成20年の100周年事業では、100名以上の会員が結集し、学校、PTAと三位一体となり、「創立100周年記念事業実行委員会」を結成し、総務・募金・名簿・式典祝賀・記念誌・広報の6分科会を組織しました。あかね会の委員に近郊在住の会員が新たに参加し、若い勢力も交えて約5年の歳月をかけて、平成の一大イベントを迎えるました。

平成20年10月11日に、記念式典と祝賀会が執り行われました。八王子市民会館で行われた記念式典では、生徒による「南高百年太鼓」の演奏が披露され、京王プラザホテル八王子で開催された祝賀会では、卒業生で結成されたOB・OG合唱団と由紀さおり・安田祥子姉妹の歌声が会場を盛り上げました。さらに記念誌「湧水万古」の発刊、広報紙「南高100周年」が発行されました。



平成20年の祝賀会で、創立100周年記念事業実行委員会の役員

そして、3,000名を越える会員から集まった貴重な記念募金は、母校へ和太鼓と洋楽器、多摩産材机・椅子の寄贈、クスノキ記念碑の建立、卒業生による「先輩に学ぶ」講演の実施など、学校を支援してきました。100周年を契機に結成された太鼓部は、現在、中等生を中心に「南多摩百年太鼓」として、校外にも活躍の場を広げ注目されています。

5. これからの同窓会活動

100周年を契機に同窓会と在校生、PTAとの絆も深まり、文化祭「南魂祭」にはあかね会も毎年参加しています。

また、100周年基金を活用して、卒業生による講演「先輩に学ぶ」に加えて、学習相談「湧志学堂」、フィールドワーク(野外実習)などの支援を続けていきます。一方、卒業生の会員に対しては、同窓会ホームページ「南多摩コミュニティ」を開設するとともに、広報紙「みなみたま」を発行、母校や会員の情報を伝えています。

今号は、あかね会100年の歴史を時代背景とともに振り返り、また、新しい時代の礎となることを願い特集しました。人と人との繋がりが希薄になっている昨今、同じ学舎で同じ教えを受けた者同士が絆を深め、同窓会のさらなる発展につなげたいものです。

小林幹彦校長(昭和45年卒)は、「同窓生の皆さんに“わが母校はあの南多摩！”と胸を張ってもらえるよう、理想をしっかりと見つめ努力していきたい」と言われています。同窓生の誰もが同じ思いでこの100周年を迎えることでしょう。『都立南多摩』という伝統ある校名のもとにスタートした中等教育学校は、6年間の南多摩での学校生活で母校への愛着を深め、さらに同窓会あかね会を若い力で、盛り上げて行っていただきたいと願っています。

母校を心のよすがに

南多摩高等学校同窓会「あかね会」前会長 黒須 隆一 (昭和35年卒)



雨降れば雨が漏り、風吹けばつぎはぎだらけの廊下には砂埃、こんな校舎の中でも私の南高時代は楽しいものでした。良き友、良き指導者に恵まれ、柔道部の活動では大会で優勝したこともありました。正義感に燃え、母校を誇りにも思っておりました。ボロ校舎も少しづつ改築され整ってゆく姿、その姿を見ては母校への愛着が高まっていったのを覚えています。

同窓会「あかね会」の会長を平成3年にお受けしてから、20年があっと言う間に過ぎてしまいましたが、会員の皆様のご協力を得て、何とかその責任を果たすことが出来たと思っております。平成20年に南高創立100周年をめでたく迎えられたこと、加えて都立南多摩中等教育学校が新しくスタートしたこと、人身一新をしなければならないと思い、会長を辞することにしました。

『散りぬべき 時知りてこそ 世の中の 花も花なれ 人も人なれ』(細川ガラシャ) 私はこの歌が好きです。

中高一貫校となって3年から6年の在学期間となり、より一層母校への愛着が深くなつて良いはずが、最近の卒業生の中には同窓会に入らない、個人情報保護とかで名簿にも載せて欲しくないという人達も出てきているようです。自分の最終目標のための通過点に過ぎないと思っているのでしょうか。母校という意識が薄くなっているのでしょうか。同窓会も今までのようなファミリー的なものではなく、新しい時代に合った形に変えていかなければならぬのでしょうか。しかし、100周年を迎えた「あかね会」、長い伝統を誇るすばらしい母校が、卒業生にとって心のよすがとなるような組織であつて欲しいと、心から念願しております。

南高と南多摩中等のこれから

都立南多摩高等学校副校長吉田寿美／都立南多摩中等教育学校副校長大熊一正



南多摩高等学校の現在

1.23年度学校経営計画の重点課題の成果

①.自立学習に向けた指導の一層の強化

授業での指導、小テスト、課題、講習・補習等と様々な試みを通じ、自立した学習者の育成を目指しました。進路や時間の上手な使い方についても考えさせました。

②.進路指導の一層の改善

進路指導部、学年担任団、教科指導者が連携し、講習・補習、生徒・保護者との面談、自習室でのチーチャー指導など、個に応じた指導を行っています。センター試験の結果も、文系・理系ともに、全国平均点を遥かに上回る好結果となりました。

③.教育活動の外部への発信

学校のHP、学年通信、学校説明会・授業公開、部活動紹介による外部への発信を行っています。

④.中等教育学校との連携

合唱祭、文化祭、体育祭の3大学校行事、教科での指導を中心に連携を深めました。

2.南多摩高等学校最後の入学者選抜



南高最後の入学者選抜の合格発表風景

平成24年2月2日午前9時。平成24年度推薦に基づく入学者選抜の合格者が発表されました。自分の受検番号を見付け、溢れ出る涙を拭う受験生とその保護者。反対に、静かにその場を立ち去る受験生の親子。教職員にも、本校に入学する生徒を預かる緊張感が漲ります。その後、海外帰国生徒対象入学者選抜、学力検査に基づく入学者選抜が続きます。高等学校での入学者選抜は、今回で最後です。24年度入学生はじめ在校生が、より充実した学校生活を送れるよう、教職員一同、心を合わせて頑張っていきたいと思います。

開校2年目の南多摩中等教育学校

今年度2期生160名を迎え、中等1年・2年の2つの学年となった南多摩中等教育学校の取組について紹介します。

1.学習活動

昨年度紹介した通り、本校は質の高い学習活動を行うことが求められています。今年度2学年となり、学習内容がより深められただけでなく、新たな取組も行いました。

①.各種検定や外部活動への参加

昨年度から取り組んだ言語力検定に加え、今年は英語検定やGTECといった英語力を図る検定に取り組みました。

さらに、書評を討論形式で競う『ビブリオバトル』に招かれてゲスト出演したり、書店のポップ(本を紹介するカードのようなもの)を取り組んで、実際に書店で使われたり、新聞の投書欄へ本校の生徒が何人も取り上げられたりと、生徒の活躍の場を広げていきました。

②.言語能力向上推進校の指定

体験的、探究的な活動を通じて、人とのコミュニケーションを高める活動が、都の言語能力向上推進事業として認められました。



体験学習の成果を発表する中等生

今年度より3年間指定を受けて様々な活動に取り組みます。各教科で発表活動にも取り組みました。英語のレシテーションコンテスト(英語を覚えて表現するコンテスト)や各教科での発表活動など生徒が自ら学ぶ取り組みを多く取り入れています。

2.生徒指導

生徒指導は、2つの学年になったから変わるというものではありません。しかし、生徒たちは日々成長していきます。その中でより的確に一人一人の生徒に対応して指導していくことを行いながら、難しい時期といわれる成長期の生徒に当たっています。

特に中等2年生は、少しずつ自分たちで活動を企画したり、委員会や部活動で活躍したりすることができるようになりました。部活動は12部が活動しています。2学年になって各部活動とも大会へ出場したり、コンクールやコンテストに応募したりと活躍しています。

3.進路指導

中等2年生の職場体験が、夏休み期間に行われました。八王子市内の事業所を中心に3日間の体験活動を行い、その様子は文化祭で発表し、見学いただいた方にも大変好評でした。受入先の事業所からも、「大変熱心に取り組んでいた」「礼儀や態度が素晴らしい」という声が聞かれました。

中等1年生の職場訪問についても、都内の様々な事業所を訪問しました。社会での職業というものを見つかることのできない現状がありますが、生徒にとって職業とはどの



職場訪問の様子

ようなものなのがを体験しながら、自分の将来を考えるきっかけとなりました。さらに、中等2年生の生徒・保護者対象に進路講演も行いました。日頃の学習習慣の確立や生活のしかたが進路へ直結していくことというお話をみなさん熱心に聞いていました。

4.特色ある教育活動

本校の特色ある教育活動『フィールドワーク』については、2つの学年がそれぞれ計画された活動に取り組みました。特に1期生が新たに中等2年生の活動に取り組みました。

中等2年は、『モノがたり』というテーマにしたがって伝統的な文化や歴史、技術などを『モノ』を通じて調べていく活動に取り組みました。特に関西研修旅行では、体験的な活動を重視して、現地の方との交流を図りました。今年度も成果発表会で発表を行いますが、さらに調べたことを冊子としてまとめ、取組として残すことも行っています。



研修旅行での体験学習

2期生(中等1年生)は、昨年度と同じように八王子の地域を題材としたマイタウンマップに取り組みました。残念ながら、このコンクール自体は、昨年度限りで中止となつたようですが、こちらも成果発表会で発表されます。

今年度は、言語能力向上推進校としてフィールドワーク活動に対する支援の他に、発表活動では東京都の外部人材活用事業の指定を受け、自然教育研究センターから4名の支援員に来ていただきました。また、あかね会からも生徒たちの探究活動を支援していただきました。

来年度は、さらに3つの学年が並行して活動を行っていきます。このため、生徒が取り組んだ活動の記録や実績を残していくこと、後輩が探究活動を引き継いでいくように整

えることが急務だと考えています。そのため新しい組織づくりが来年度の課題です。

5.宿泊行事

①1期生のオリエンテーション合宿

本校では、様々な地域から新入生が入学します。そこで4月の段階で仲間つくりや中等教育学校での生活に慣れてもらうために1泊2日の合宿を行っています。今年度は東日本大震災の影響で残念ながら4月に実施できませんでした。その代りに10月4日～5日に長野県高遠において宿泊行事を行いました。来年度は予定通り4月に実施します。

②2期生の関西研修旅行



関西研修旅行で奈良東大寺へ

2期生は、10月25日～27日に京都・奈良への関西研修旅行を行いました。日本の古都を訪れる機会は、意外と少ないものです。その中で

日本の歴史や伝統、文化に触れる機会とするだけでなく、短い期間の中でも探究活動やその土地の方とのコミュニケーション活動を通じて、学びを深めてもらいたいとのねらいで実施しました。班行動を中心にスケジュールを組んで行動するということにも挑戦しました。

1期生は今年、中等3年になります。3泊4日の知床移動教室が6月に行われます。

6.来年度に向けて

来年度は、3期生を迎える前期課程と呼ばれる中学校段階の3年間が完成形をむかえます。

今後ともぜひ母校へのご支援をよろしくお願いします。

「母校・南多摩への想い」

南多摩高等学校・南多摩中等教育学校 校長 小林 幹彦 (昭和45年卒)

名前なんかどうでもよい。理屈ではそう思う。しかし、スッキリしない。「南高(なんこう)」という響きへの郷愁が頭をもたげる。南多摩高校から南多摩中等教育学校へ、母校が変わろうとしている。「南高」改め「…」、何と呼べばよいのだろう。「第四高女」から「南高」に変わったときの先輩方の想いはどんなだったのだろう。

「変わる南高、変わらぬ想い、刻め南高 Spirit！」

南多摩中等教育学校が開校する前の年、平成21年度の体育祭スローガンである。当時の現役南高生の創作だ。名コピーだと思う。ただし、心配なことがある。「『南高Spirit』とは何か」ということだ。自由奔放や自分勝手な自主自立、非生産的で消費的で怠惰な生活観、無礼な着崩しや態度、これを南多摩の伝統とし「南高Spirit」だとするならば、とんでもない勘違いである。「そんなもの刻まれてたまるか！」

と思う。

第四高女の時代から学校の制度は変わっても、学びを尊ぶ精神、当事者として世に立つという精神、樹齢百年超の大クスノキに象徴される不屈の精神は変わらない。

絶対に変わらない。このことを現役生徒、教職員、そして卒業生皆で心に刻みたい。むしろ制度の変わり目である今こそ、心を新たに確認したい。

このスローガンを私はこのように理解し、感激した。だから広く同窓生にこのことを伝えたい。

「変わる南高、変わらぬ想い、刻め南高 Spirit！」

これが母校南多摩への想いである。



南多摩・学校ニュース 2011~2012

●東日本大震災で、母校は宿泊施設に：3月

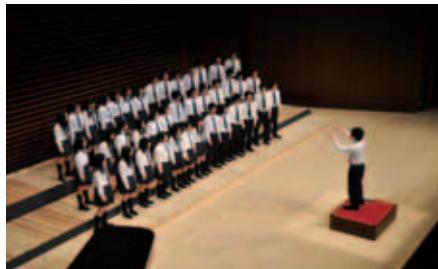
2011年3月11日に東日本大震災が発生、母校はこの日帰宅困難者に対し体育館を一夜の施設に開放したことで、まわりから賛辞の声が聞かれました。その分、教職員の皆さんには徹夜での対応で、それは大変だったと思います。この影響で、あかね会で3月18日に予定していた卒業生による講演「先輩に学ぶ」も中止になりました。

●2回目の中等・高校合同入学式：4月

4月7日、新入生を出迎えるかのように桜が咲き誇る母校で、南多摩中等教育学校と南多摩高校の合同入学式が体育館で行われました。一昨年から始まった2回目の合同入学式で、南多摩高校としては64回目になります。小林幹彦校長は式辞の中で、被災された方へのお見舞いと、「その苦労を忘れないように、たくましく復興を願う」という話をされました。

●合唱祭は落成のオリンパスホール八王子で：6月

伝統ある「第66回合唱祭」は、落成したオリンパスホール八王子(新市民会館)に場所を移して6月2日(木)に開催されました。新しいホールに期待を膨らませ、心昂ぶる生徒たちは目がきらきら輝き、いきいきした表情の南高生・中等生でした。今回、審査員という立場で合唱祭に参加した坂井歩さん(平成20年卒)は、「広い会場は南多摩の魅力あふれる歌声に包まれ、魂のこもった声に心動かされ、たくさん力をもらったように思います。」と語りました。



●103回合同文化祭「南魂祭」：9月

2回目になる中等・高校の合同文化祭・第103回『南魂祭』は、9月10日(土)・11日(日)に開催されました。全国学校合奏コンクール東京都大会で優秀賞に輝いた室内楽部は、2011年4月に「フィルハーモニー部」と改称し、横井明子先生の指揮のもと、小ホールに超満員の観客を集めて演奏しました。TAMAや東京都高等学校のアンサンブルフェスタで銀賞を獲得した「吹奏楽部」は講堂に全部員が勢揃い、見事な演奏を披露しました。

「太鼓部」は、初めて体育館の舞台を使って演奏しました。

会場の中央にはあかね会が寄贈した中等教育学校開校を祝う「萬祝旗」が飾られ、新しい1尺8寸の長胴太鼓も加わり、中等1・2年生総勢28人が9台の太鼓を舞台上で打ち合う競演に、会場から盛大な拍手が送られました。(写真下)

●部活に昇格した太鼓部「南多摩百年太鼓」

100周年基金の和太鼓寄贈で2008年に誕生した太鼓クラブは、「南高百年太鼓」として演奏実績を重ねて、ついに2011年4月、正式に「太鼓部」として部活に昇格しました。



現在の部員は中等1年生20名、2年生8名の新勢力で、経験不足を若さと練習量で補い、八丈太鼓の名手・今川健司先生の厳しい熱烈指導のもと、短期間で技術が上達したことは、誰の目にもよく分かります。『南多摩百年太鼓』として、「南魂祭」のほかに、7月「八王子とうろう流し」、11月「八王子子どもまつり」、「八王子いちょう祭」で演奏を披露し、野外演奏活動も活発になりました。12月には集大成である「第1回ソロ発表会」も行われました。

●3000m 障害に3年男子が岩手インターハイ出場

陸上競技3000m障害東京大会で3年のT君が優勝、関東大会南関東地区は第2位になり、8月の「全国高校総体・岩手インターハイ(北上市)」に進出しました。予選第3組の出場でしたが力及ばず11位で敗退となり、全国の壁は厚く、決勝進出はなりませんでした。

●昭和記念公園でマラソン大会：2012年2月

南多摩伝統のマラソン大会は、心配された天気も予想外の好天に恵まれた2月13日朝、立川の昭和記念公園で開催されました。「みんなの原っぱ」をスタートとゴール地点にして、内・外まわりの2コースを使って行われました。中等1・2年と高校1・2年が学年別・男女別に分かれ、高校男子が8.2km、高校女子と中等2年男子が6.4km、中等1年男子と中等1・2年女子が4.1kmの距離を、すべての生徒が規定時間内に元気いっぱい完走しました。

東京都立南多摩高等学校のホームページ

<http://www.mt-h.metro.tokyo.jp/>

東京都立南多摩中等教育学校のホームページ

<http://www.minamitamachuto-e.metro.tokyo.jp/>

あかね会ニュース 2011～2012

◆「白寿」のあかね会総会：5月15日(日)

五月晴れの日、母校で70人が参加してあかね会総会が開催されました。明治44年、第四高女の同窓会設立以来99回目の総会でした。黒須隆一會長(昭和35年卒)と小林幹彦名誉會長(学校長・昭和45年卒)の挨拶に始まり、永年、副會長として会に貢献された渡邊マサ子さん(昭和19年卒)、大島富子さん(昭和25年卒)、100周年記念事業実行委員長として活躍された常盤正臣さん(昭和31年卒)に対して、会長表彰が行われました。

総会では決算・予算・事業計画などが滞りなく承認され、

會長職は黒須會長から、副會長の石川和昭さん(昭和36年卒)に引き継がれました。

恒例の講演会は、西川知恵子さん(昭和23年修了)が「優雅に試練を乗り越えた私の80年」と題し講演され、続いて、母校太鼓部「南多摩百年太鼓」の特別演奏と

西川さんの優雅な「車椅子ダンス」に、多くの会員から大きな拍手が送られました。

◆夏の高尾山納涼会： 8月20日(土)

今回の納涼会は常任委員以外の会員も募り、10人以上が初参加され、あかね会がより身近な存在として認識されたようでした。早朝から高尾山頂に登り英気を養ったあとに参加する会員もあり、総勢35人の出席になりました。納涼会前に常任委員会が開かれ、母校文化祭への参加、2012年の総会の準備、新たに和太鼓(長胴太鼓)と開校記念応援旗の母校寄贈などの報告がありました。

納涼会では半澤邦彦副會長(昭和37年卒)のユーモアある進行で始まり、

高尾山薬王院・大山隆玄貫主(昭和28年卒)の挨拶に続き、石川會長からは、「組織の底辺を広めるため、一般会員にも参加を募った。世代を越えた深い親睦がはかれる会にしたい」との挨拶がありました。宴に入り、山で採れた味に定評のある精進料理「高尾膳」を皆で会食し、近況報告の中に母校への熱い思いが語られました。

◆母校文化祭に参加： 9月10(土)～11日(日)

今年の「南魂祭」は卒業生作品展、アトラクションを催し、会員や生徒、一般客で賑わいを見せ、「あかね会クイズ」では卒業生が中等生に歴史を語るなど、交流も広がりました。

作品展には書道、絵画、写真、能面、陶芸、書籍など、卒業生の力作が67点(前年は38点)も出展され、好評を博しました。(写真右上)

出展準備と後片付けには、新入会員延べ10人が強力な助っ人となり、感謝感激でした。

アトラクションでは、八王子在住の演歌歌手・伊達めぐみさん(平成3年卒)とテノール歌手・丸山久さん(昭和44年卒)の歌謡ショーを開催。「南高ならではの演歌とクラシックのコラボ」の企画で、伊達さんは新曲の「よっしゃよっしゃ！ソーランおんな節」など、丸山さんは「サンタルチア」など数曲を熱唱し、名残りの尽きない1時間のショーは、あつという間に終焉になりました。(写真右下)

◆新春の「新年会」： 2012年1月14日(土)

八王子プラザホテルで31人が出席して開催された新年会は、半澤副會長の司会で始まり、石川會長から「今年はあかね会設立100年であり、5月の総会は記念総会として開催したい」との提案がありました。黒須顧問(前會長)の挨拶後、全員が「1分スピーチ」で今年の抱負を述べました。特に、井上務さん(昭和44年卒)から、石川會長宅の秘話「青梅のずんずく大尽伝説」が披露され、関心を呼びました。

アトラクションでは、伊達めぐみさんが飛び入りで「☆(ほし)の舞」など2曲を披露し、最後のお楽しみbingoゲームでは、卒業生の書籍など様々な景品が、参加費の中からお年玉として配られ、新春らしい和やかな懇親会でした。

◆母校支援「先輩に学ぶ」： 3月22日(木)

100周年記念事業時から継続している「先輩に学ぶ」講演は、進路指導の一環として高校2年生を対象に、「卒業生が知識と経験を語る」支援活動です。

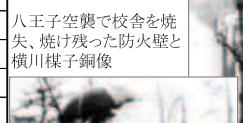
今年の講師は、福田ゆきさん(昭和34年卒)、神藤宏昭さん(昭和35年卒)、小林孝好さん(昭和38年卒)、泉田次男さん(昭和44年卒)、日高定昭さん(昭和44年卒)、村内伸弘さん(昭和61年卒)の6人です。講師の皆さんには、企業人、大学教職員、海外で活躍する芸術家、そして獣医学博士としての貴重な体験などを語ってくださいました。

「先輩に学ぶ」の目的のひとつはキャリア教育。後輩の皆さんのが将来への職業を見据え、学習へのモチベーションを高めて欲しいとの思いで開設した講演は、今回も大きな成果を収めることができたと確信しております。



東京都立南多摩高校・あかね会100年のあゆみ



| 西暦 | 年号 | 学校長 [あかね会会長] | 出来事 | グラフィック |
|-----------|-----------|-----------------|--|--|
| 明治 | | | | |
| 1892 | 25年11 | | 横川様子女史が私立八王子女子学校を創設(母校の前身) | |
| 1908 | 41年5. 1 | 長尾松三郎① | 東京府立第四高等女学校が開校 初代校長に長尾松三郎就任 | |
| 1909 | 42年6. | | 東京府立第四高等女学校の全校舎落成 | |
| 1911 | 44年3. 24 | | 第1回生が卒業(47名) | |
| | 44年11. 26 | [長尾松三郎①] | 第四高女同窓会(あかね会の前身)設立、初代会長に長尾松三郎就任 |  横川様子:八王子横川町出身の女性教育者。自ら経営の八王子女学校を東京府に寄付、府立第四高女設立に功績を残す |
| 大正 | | | |  府立第四高女の第1回卒業生 |
| 1915 | 4年 | | 技芸科を実科に改称 第1回生卒業(25名) | |
| 1922 | 11年 | | 第1回富士登山(3泊4日)を実施 | |
| 1923 | 12年 | | 創立15周年記念式典挙行、関東大震災による本校の被害は軽微 | |
| 1925 | 14年 | | 本科の修業年限を5年に改め、定員本科500名、実科200名に | |
| | | | 高女の徽章が入ったベルトを制定 | |
| 1926 | 15年1. 3 | | 創始者 横川様子女史永眠(享年73歳) | |
| | | | バスケットボール部が全国大会で準々決勝進出 |  初代校長・長尾松三郎 |
| 昭和 | | | |  第四高女のベルト |
| 1928 | 3年 | | 保護者会(PTA)の寄附によりプール完成、水泳が体育の正課に | |
| | | | 創立20周年記念祝賀式を挙行、第四高女の校旗を制定 | |
| 1929 | 4年 | | 五十嵐信子・徳江喜代子、オリンピック陸上選手候補に選出 | |
| 1930 | 5年 | | 校服を着物からジャンパースカートの洋服に改める | |
| 1931 | 6年 | 阿妻利八② | 実科第17回最後の卒業(47名) | |
| | | [阿妻利八②] | 第四高女の校歌制定 |  昭和初期の制服 |
| 1933 | 8年 | | 創立25周年記念式典を挙行 | |
| 1935 | 10年 | | 福島ヒロ子・原日出子、ベルリン・オリンピック水泳選手候補に選出 | |
| 1936 | 11年 | | 創設者・横川様子女史の青銅製胸像を建立、第2寄宿舎新築落成 | |
| 1938 | 13年 | | 補習科第1回生卒業(29名) | |
| | | | 野中喜美子、第12回オリンピック水泳選手第1候補に選出 |  昭和15年に全国制覇し日本一を達成した第四高女の水泳選手 |
| 1939 | 14年 | | 体育馆(兼講堂)を新設 終戦前まで使用された | |
| 1940 | 15年 | | 旗野富美、水泳200m自由形で日本新記録を樹立 | |
| | | | 第5回日本女子中等学校選手権水上競技大会(広島)で全国制覇 |  なぎなたの稽古 |
| 1941 | 16年 | | 東京選手権水上競技大会(神宮)で女子全7種目で第1位獲得 (旗野富美、水泳200m自由形で日本新記録:2分44秒6を樹立) | |
| 1942 | 17年 | | 第6回日本女子中等学校選手権水上競技大会(東京)で優勝 | |
| | | | 浅井美枝子、水泳で日本新記録を樹立 |  八王子空襲で校舎を焼失、焼け残った防火壁と横川様子銅像 |
| 1943 | 18年 | | 都制施行で東京都立第四高等女学校と改称、修業年限4年に | |
| 1944 | 19年 | 岩崎源兵衛③ | 専攻科第1回生卒業(附設課程を含め24名) | |
| | | [岩崎源兵衛③] | 学徒勤労令・女子挺身隊勤労令施行で、工場などへ動員 | |
| | | | 都立臨時教員養成所を校内に併設 | |
| 1945 | 20年 | | 校内に戦時託児所を開設 | |
| 8. 2 | | | 未明のB29による八王子空襲で校舎が全焼 | |
| 1946 | 21年3. 1 | | 昭和天皇が三多摩ご視察で本校に行幸、激励のお言葉を賜る | |
| | | | 修業年限が5年に復帰、新入生のための平屋校舎が完成 | |
| | | | 第7回日本女子中等学校選手権水上競技大会(宝塚)で優勝 | |
| | | | 第1回国民体育大会水泳競技(兵庫・宝塚)で優勝 | |
| | | | 合唱コンクール(合唱祭)が始まる | |
| 1947 | 22年 | | 平屋建て木造校舎すべてが落成 夜間課程(定時制)を新設 | |
| | | [渡辺フミ④] | 第4代同窓会々長に初めて卒業生から渡辺フミが就任 |  家庭科教育のモデル校に指定 |
| 1948 | 23年 | | 東京都立第四新制女子高等学校に改称し、新制中学を併設 | |
| | | | 保護者会を解散し、新しくPTAが発足 | |
| | | | 第9回日本女子中等学校選手権水上競技大会(名古屋)で優勝 | |
| | | | 第3回国民体育大会の水泳競技(福岡・八幡)で優勝 | |
| | | | 家庭科教育のモデル校に指定 | |
| 1949 | 24年 | | ホームルーム・セルフスタディ・5日制・生徒会・選択教科・別格実験校に指定 | |
| | | | 新制高校(3年制)の第1回生が卒業(41名) | |
| | | | 初めて男女共学を実施(男子8名入学) | |
| | | | 第10回日本女子中等学校選手権水上競技大会(甲子園)で優勝 | |
| 1950 | 25年 | | 東京都立南多摩高等学校と改称(男子150名、女子200名が入学) | |
| | | | 「南高」の校章と校歌を制定 | |
| 1951 | 26年 | | 定時制高女(44名)及び定時制第1回生卒業(66名) | |
| | | | 野球部、第3回青龍旗戦大会に優勝 | |
| 1952 | 27年 | 山下清④ | | |
| 1953 | 28年 | | 創立45周年記念式典を挙行 創立45周年に同窓会室を寄贈 | |
| 1955 | 30年 | [青木久榮⑤] | 木造モルタル2階建校舎(東館)・鉄筋3階建校舎(管理室)が落成 |  南多摩高校の校章 |
| | | | |  男女共学後、野球部が青龍旗戦大会で優勝 |

| 西暦 | 年号 | 学校長 [あかね会会長] | 出来事 | グラフィック |
|-----------|----------|-----------------|-----------------------------------|--------|
| 1956 | 31年 | 池田 文雄⑤ | | |
| 1957 | 32年 | | 木造モルタル2階建校舎(北館)が落成 | |
| 1958 | 33年6. .5 | | 鉄筋3階建校舎本館(西館)と時計台、体育館兼講堂が落成 | |
| | 11. 1 | | 創立50周年記念式典を挙行 | |
| | | | 同窓会を池田校長が「あかね会」と命名 時計台の時計を寄贈 | |
| | | | 第3回アジア大会の自転車競技表彰式会場に | |
| 1959 | 34年 | | 本館(西館)に特別教室が落成 | |
| | | | 第14回国民体育大会の剣道会場に、高松宮妃殿下が御来校 | |
| 1960 | 35年 | [小川 良⑥] | 生徒ホールが完成 | |
| 1963 | 38年 | 平野 穀一⑥ | プールスタンドが完成 | |
| | | [木村 岩夫⑦] | | |
| 1966 | 41年 | | 東京都定時制体育大会で女子ソフトボール部が優勝 | |
| 1967 | 42年 | 梅田 崇⑦ | 東京都で学校群制度が実施される | |
| | | [河内八重子⑧] | 創立60周年記念式典を挙行 | |
| | | | 60周年であかね会が講堂の綾帳と玄関前大石を寄贈 | |
| 1968 | 43年 | | 地歴部学生が初めて八王子市宮田遺跡跡で「子抱き土偶」を発掘 | |
| 1969 | 44年 | [高崎 久枝⑨] | 南高紛争が勃発 | |
| 1970 | 45年 | 平井 正士⑧ | 制服がフリーに | |
| | | [山村 雄一⑩] | | |
| 1973 | 48年 | 飛岡 正治⑨ | 図書館を西館4階に建設、生徒クラブ部室が完成 | |
| | | | 陸上部が春季全国大会に五種競技と円盤投げで東京代表で出場 | |
| 1974 | 49年 | [小川 良⑪] | 陸上部が全国大会出場 | |
| 1976 | 51年 | 本山 義則⑩ | | |
| 1978 | 53年 | 荒久保 忠夫⑪ | 創立70周年記念式典挙行 | |
| | | | あかね会が記念誌「写真でつづる母校の70年」を発刊 | |
| 1979 | 54年 | | 濃紺ブレザー、えんじネクタイの制服着用 | |
| | | | 演劇部が第33回都高校コンクールで優良賞受賞 | |
| 1980 | 55年 | | 鉄筋4階建の現東館校舎が完成、新校舎落成記念行事を実施 | |
| | | | あかね会が甲州街道沿いの南庭の庭園(南光苑)を整備 | |
| 1981 | 56年 | | PTA(保護者会)主催で第1回公開文化講座を実施 | |
| | | | 小ホールを東館に建設 | |
| 1982 | 57年 | 橋本 章男⑫ | グループ制入学選抜制度実施 | |
| | | | 文部省の研究協力校に指定される | |
| | | | 海外帰国生徒学級を開設 | |
| 1983 | 58年 | | 現体育館兼講堂(鉄筋4階建)と水槽ステンレス製プールが落成 | |
| | | | 北京第80高級中学校と姉妹校提携、北京市教育考察団が來訪 | |
| | | | 創立75周年記念式典挙行、75周年記念誌「未来をひらく」を刊行 | |
| | | | あかね会が75周年記念会報誌「みなみたま」を刊行 | |
| 1984 | 59年 | 渡辺 忠胤⑬ | | |
| 1985 | 60年 | | ピロティ改修(帰国教室・小ホール) | |
| 1986 | 61年 | | 帰国学級施設鉄筋2階建が完成 | |
| 1987 | 62年 | 佐野 和夫⑭ | 横川模子女史胸像を再鋳、通用門に移設 | |
| 平成 | | | | |
| 1990 | 2年 | 小林 輝雄⑮ | | |
| 1991 | 3年 | [黒須 隆一⑯] | | |
| 1993 | 5年 | 犬丸 章門⑯ | 各地に存在した5個所のあかね会支部を閉鎖 | |
| 1994 | 6年 | | 単独選抜実施、第1学年から新教育課程実施 | |
| 1995 | 7年 | | 現西館校舎が新築落成、視聴覚教室を設置 | |
| 1997 | 9年 | 亀岡 良平⑰ | 夜間照明付きダスト舗装グラウンドとテニスコート(3面)整備 | |
| | | | 全国高校囲碁選手権で個人優勝 | |
| | | | 創立90周年記念式典を挙行、90周年記念誌を刊行 | |
| | | | 南庭の庭園(南光苑)を整備し、大クスノキを通学路に移植 | |
| 1999 | 11年 | 甲田 充彦⑱ | | |
| 2000 | 12年 | | 東京都より八王子地区の中高一貫教育高に指定される | |
| 2003 | 15年 | 榎本 成己⑲ | | |
| 2007 | 19年 | | 100周年を前に生徒が校庭で人文字を作成 | |
| 2008 | 20年 | 小林 幹彦⑳ | 100周年記念募金で和太鼓と洋楽器一式を寄贈 | |
| | 10. 11 | | 創立100周年記念式典を八王子市民会館で挙行 | |
| | 10. 11 | | 100周年記念祝賀会を京王プラザホテル八王子で開催 | |
| | | | 100周年記念誌・永久保存版「湧水万古」を刊行 | |
| 2010 | 22年3 | | 定時制を閉課程、63年の歴史に幕 | |
| 22年4 | | | 八王子地区・6年制中高一貫校として都立南多摩中等教育学校が開校 | |
| 5 | | | 100周年記念基金で「クスノキの記念碑」を建立 | |
| 9 | | | 文化祭・体育祭の名称が「南高祭」から「南魂祭」に変更 | |
| 11 | | | 都立南多摩中等教育学校の開校式典を挙行 | |
| 2011 | 23年 | [石川 和昭⑳] | 第66回合唱祭を落成したオリンパスホール八王子(新市民会館)で開催 | |
| 2012 | 24年5. 20 | | あかね会100周年記念総会を八王子プラザホテルで開催 | |
| 2015 | 27年3 | | 東京都立南多摩高等学校が閉校(都立南多摩中等教育学校が継承) | |

注:赤文字=あかね会関連の出来事

最後のクラス会

坂口 田鶴子（旧姓 山本）（昭和14年卒・梅組）

私達は皇太子御誕生の喜びに湧いた興奮の余韻まだ醒めやらぬ昭和9年に入学しました。入学式の行われた講堂正面に掲げられた2枚の扁額、「捨我精進」「自他一如」の4文字は、毎週月曜日の講堂訓話の時に歌った「精進聖軍の歌」と共に心に焼きついています。更に「質実剛健」「誇り高く」を加えた4つの教えに従って修養し、「皇國に恥じぬひめの鑑となれ」と厳しく育てられました。

当時は大正デモクラシーの時代が終わり、軍事国家への道を歩み始めた頃で、2.26事件、支那事変と不穏な空気が漂い、大不況にもみまわれていました。その中で私達は

月1回の日の丸弁当や、幼年学校の制服の繕いが非日常的ぐらいで、戦争を身近に感じることも不況に思いを致すとともになく、校則にささやかな抵抗をしたり、ひそかな夢に胸ときめかず楽しい日々を過ごしていました。大切な人をなくしたり、何もかも焼けつくされる太平洋戦争が間近に迫っているとは露知らず。

私達梅組は、72年続いたクラス会を昨年11月の「卒寿の集い」で閉じることにしましたが、幸せな女学生時代を与えてくださった父母、恩師、母校への思いは語り尽くせず、またも、再会を約しての別れとなりました。

澤 穂希さんの少年団時代

大高 富太郎（昭和38年卒）

南多摩高校の思い出は、入学したての5月、教室掃除時間に遊んでいて、左腕複雑骨折をしたことです。そのお陰で、多くの友だちが出来、50年も経った今でも付き合いをさせてもらっています。

中学・高校と卓球部に所属していた私が、教員になってからは少年サッカー指導に関わりを持ちました。そのお陰で、いま話題の「澤穂希さん」を小学4年生から6年生まで、サッカーボーイズのコーチとして担当することができました。

なでしこジャパンは、サッカーワールドカップ・ドイツ大会で優勝をしました。サッカーファンだけでなく、日本国民全体に明るいニュースでした。澤さんは、その大会で、最優秀選手と得点王に輝きました。また、その後、今年の1月には、国際サッカー連盟の2011年世界年間女子最優秀選手に選ばれました。すごいことです。澤さんは2年生から、府ロクサッカーカラーブに入団しました。2・3年生は、お父さんコー

チの箕輪 進さんに個人技の指導をしっかりと受けました。身に付いたそれらの技が、いまも生きています。

澤さんは、サッカーが大好きな少女でした。早めに来ては、サッカーの基礎であるリフティングとドリブルを一人で黙々と練習していました。また、試合となれば、男子に負けずとヘディングなどで点を取り、守備でも体を張って防いでいました。最後まで試合を諦めずに頑張る姿が印象的でした。

その後も努力を続け、彼女の座右の銘「夢は見るものではなく 叶えるもの」を達成したのです。その素晴らしい彼女に少しでも関わられた私は、幸せ者です。澤さんをこれからも応援していきます。



楽しかった南高の思い出

中野 裕美子Yumiko Nakano Stegner（昭和51年卒）



卒業してから約35年。あつという間である。南高というと、私は私立女子中出身で、その学校とは校風が合わなく、また、規律も厳しかったため、自由な都立高を選び、この学校に来て良かったと思う。制服もなく土曜日は半日の学校の後、新宿や原宿までよく行った。どういうわけか、お弁当を2、3時間目の休憩時間にとることが好きだった。

3年間、楽しい思い出ばかりだ。南高を卒業して2年目の時である。ひょんなことからウグイス嬢、選挙の手伝いすることになる。市会議員に立候補した黒須隆一先生だった。

当時は同じ学校の出身とは知らなかった。

高校卒業後、自分もほぼレールを敷かれた線路上の電車と同じように、進学、就職、結婚、育児と人生を生きていく。ただ普通の人と異なるのは35年のうち、32年を外国、アメリカで過ごしていることである。

留学し通訳などをした後、アメリカ人と結婚し2人の娘を産み、そして30歳過ぎに航空会社にキャビンアテンダントとして働き始めた。その後、もう2人子供を出産し、4人のママさんスチュワーデスとして、仕事、家事、育児に追われながらも、昨年、勤続20年になった。あとは、こちらアメリカでは南多摩高校は有名である。海外帰国子女を受け入れる都立高であるからだ。現在、アメリカの首都ワシントンDC郊外のバージニア州に在住している。

日本画家 日本美術院院友 玉川大学非常勤講師 宮下 真理子（平成6年卒）

私は現在日本画家として日々活動しています。先日念願であった地元八王子での個展を実現することができました。展覧会には多くの南高卒業生、あかね会の皆様にお越しいただきました。八王子出身の南高卒業生が芸術家になったということで皆様から多くのご声援をいただきました。

ご存知の通り、いわゆる進学校の南高に芸術コースはありません。そこで普通の勉強



と全く異なる分野への進学には苦労がありました。三浪の末にやっと藝大に合格しましたが、その先も努力が必要でした。大学院・博士課程へと進み、博士号を取得してようやくスタートラインに立ったようなもの。自分の道を見つけられても前進するためには継続した努力が必要です。

今考えると険しい道を選択したと感じますが、学習意欲を維持し、努力し続けることができたのは、南高でそれらの基礎（勉学を楽しみ、また何事にも一生懸命取り組む姿勢）を教えていただいた賜物ではないかと思います。

夢の実現に必要なエッセンスは南高にあります。沢山の可能性の芽があり、それらが育つ肥沃な土壌があります。

私は画家という珍しい職を生業としていますが、根っこはやっぱり「南高生」なのです。

行動するということ

木下 将悟（平成23年卒）

私は、現在大学で、総合創作サークルという、具体的には絵や小説から、造形、写真まで幅広いジャンルでの創作活動を行うサークルに所属しています。今はその副会長をやらせていただいており、最近は夏の学園祭への出展に向けて動いています。全体をまとめるのは中々に骨なのですが、幸いなことに、南高のときにも生徒会長など、まとめ役をやったことがあったので、その時に学んだことが活かされています。

さて、その学びというのですが、これは巧くいったことよ

りも、後悔している部分に多くありました。そもそも巧くいくことの方が少ないんですがね。高校時代にやりきれなかった点、わからなかつた点なんかの答えは、しばらく放っておいて、距離をとつて見つめ直さないとわからないものでした。

「失敗」の授業料は高かったのですが、撒かぬ種は生えません。動けば何かしら結果が伴い、そして動いたときのリスクは後になるほど大きくなります。できることはお早めに。

これからの方々の学校生活が実り多いものになることを祈っています。

南多摩高校で学んだこと

都立南多摩高等学校3年 佐藤 正輝（平成24年卒）

南多摩高校に入学してから早くも3年が経ちました。今ではもう卒業を迎えていました。南多摩高校では、多くのことを学びました。

学習面では、先生方の丁寧な説明のおかげで、すぐに理解することができました。放課後教室で勉強していると、先生方から「分からないところはある？」と聞いてもらえ、分からぬところもすぐに理解することができました。

他人との協調性というのも学びました。私はあまり他人と一緒に何かを行うということが得意ではありませんが、南

魂祭など様々な行事を通して、少しずつではありますが、他人と一緒に行動することが楽しく思えてくるようになりました。これも友達や先生方のお陰だと、とても感謝しています。私が学んだことは、これだけではありません。部活動のキャプテンをやることになり、責任感というものはどういうものなのかも学びました。

南多摩高校では、とてもたくさんのこと学ばせてもらいました。南多摩高校を卒業することができて、本当に良かったと思っています。先生方、大変ありがとうございました。

【会員通信】は、あかね会ホームページ『南多摩コミュニティ』でも常時掲載いたします。母校への想い、現在の状況など、会員の皆さまからの投稿をお待ちします。写真添付もお願いします。また、ファックスでもお受けします。
メール送付先:koho@akanekai.org ファックス送付先:042(646)2255 [あかね会・広報委員会]

◆あかね会の今後の活動について

同窓会の発足は、明治44年です。以来、母校は第四高女、南多摩高校、そして中等教育学校へと引き継がれています。この間、同窓会運営は主に多くの女性役員の献身的な努力により支えられ、この度100年を迎えるました。



4年前の母校「100周年」を契機に、多くの男性が活動に参加し、その後も50～60歳台の「若手」会員が会の活動や100周年基金の運営に携わっています。

あかね会では、会の活動の活性化をめざし、一昨年「同窓会活動の今後のあり方」について検討しました。

- ①. 常任委員をできる限り卒業各年次から選出する。特に30～40歳代の常任委員を増員する。
- ②. 総会のあり方を、議事中心から各世代の交流や懇親を主とした会に改め、出席者を増やす。参加費の有料化や事前申し込み(徴収)などを試行する。
- ③. 会の活動周知、会員交流の促進。また、広報紙への期待に応え、広報継続発行とホームページ充実を図る。
- ④. 母校支援に賛同する会員、同窓会活動協力者(ホームページ担当者)の発掘、著名人などの情報入手を図る。
- ⑤. 簡素で効率的な会の組織、役割の整理統合を図る。
- ⑥. 会員の誰もが交流・懇親できる行事などを検討する。

これら運営改善は着手したばかりで、会の活動の充実には、多くの会員有志のご協力が欠かせません。現在、常任委員には、例え「総会・行事企画」「文化祭企画」「広報・ホームページ企画」「先輩に学ぶ企画」などの役割(分科会参加)を担っていただることとしています。

会では、会員への情報提供や交流活動の推進などをかかります。ぜひ、活動に参加してみませんか。

◆100周年基金と学校・生徒の支援について



「創立100周年基金」は、母校100周年記念事業で同窓会員の募金をもとに設立されました。記念事業の後に残された淨財を引継ぎ、平成21年5月、基金運営委員会を設置し、学校・後輩生徒などへの支援を開始しました。設立の目的は、母校の発展、後輩生徒が豊かな人間性・社会性を身につけ、有為な人材に育つよう支援することです。

平成20年の100周年事業では、記念式典・祝賀会の実施、記念誌「湧水万古」や「会員名簿」発行のほか、和太

鼓や洋楽器などを寄贈し、現在、母校の「太鼓部」や「吹奏楽部」「フィルハーモニー部」で活用されています。

平成21年以降、スクールカウンセラー派遣、多摩産材の机椅子寄贈、「先輩に学ぶ」講演の企画と講師派遣、同窓会ホームページの開設、あかね会広報紙「みなみたま」の郵送料、昭和の戦災で焼け残った「クスノキ記念碑」の建立などの支援に取り組んできました。23年度は、和太鼓(長胴太鼓)、中等教育学校開校記念「萬祝旗」を寄贈しました(写真左下)。今後も永く活用できる物品寄贈など、母校・生徒への支援に努めています。

◆東日本大震災の被災者の方々へのお見舞い

昨年3月11日、東日本大震災で地震、津波、原発などで被災・避難された皆様、その関係者の皆様に、改めてお見舞いを申し上げます。

あかね会では、昨年3月の常任委員会と、5月の総会で被災地救援の義援金を募り、会員有志からの145,000円を、「八王子市東北地方太平洋沖地震支援本部」を通じて寄付いたしましたのでご報告します。

会員の皆様は、個人の立場や職域などで、種々の支援、お見舞いをされたことと思われます。八王子市内のあかね会会員の家族が持つ集合住宅を、避難された被災地の方に無償提供したことなども報告されています。

昨年6月には、母校創立100周年の記念誌編集委員の「湧水万古の会」(有志10名)が、『その時私は—東日本大震災』と題する冊子を発行しました。そこには、ある委員宛てに届いた、被災地・仙台在住の大先輩会員(昭和13年卒)からの便りなども紹介されました。

◆会員の発掘、「人名録」の編集について

あかね会会員の皆様で、各界で活躍されている方の情報を求めていきます。お心当たりのある方は、ぜひ情報をお寄せください。自薦、他薦いずれでも結構です。会ではこうした情報を集め、「先輩に学ぶ」の講師、中等教育学校生徒の野外学習の案内指導者、同窓会活動への協力者などの発掘をはかつてまいります。

なお、これまで記念誌、広報紙、ホームページで紹介された会員を一部ご紹介します。

⇒連絡先:溝口 猛 【携帯】090-6489-5939

【メール】jimukyoku@akanekai.org

旗野恵美(S26)・舞踊家／伊藤淳子(S27)・舞踊家・八王子文化連盟理事長／大山隆玄(S28)・高尾山薬王院貫主／福田ゆき(S34)・画家・アメリカ在住／軽部征夫(S35)・東京工科大学学長／黒須隆一(S35)・前八王子市長／郡司博(S38)・指揮者(「無限の粒」作詞曲)／森保彦(S38)・弁護士／松田有子(S39)・合唱指導者(OB・OG合唱団指揮)／丸山久(S44)・テノール歌手・作曲家／原成吉(S47)・独協大学教授／伊達めぐみ(H3)・クラウン専属歌手／宮下真理子(H6)・日本画家／涼花リサ(H10)宝塚歌劇団雪組
[敬称略、()内は卒業年]

あなたも参加してみませんか！

あかね会通信

★あかね会常任委員を募集

あかね会は、会長以下の役員と常任委員などで運営されています。常任委員は、会長・副会長の推薦、役員会の提案事項の審議及び諸事業の運営に携わることを任務としています。その他、左頁記事のような活動に携わっています。常任委員は、概ね学年代表2人程度を選んできた経緯がありますが、近年は代表が選出されていない学年が数多くあります。次の卒業年次で、同窓会等の幹事さんなどがいる学年は、自薦・他薦を問い合わせませんので、ぜひ、常任委員のご推薦をお願いします。

【常任委員がない卒業年次】昭和40 41 42 43 45
46 47 48 50 53 54 55 56 58 59 60 61 62 63
平成3 4 6 ~ 24

なお、上記以外の年次の方で、常任委員を希望される方がいれば、ぜひお申し出ください。 ⇒連絡先：溝口 猛
【携帯】090-6489-5939 【メール】jimukyoku@akanekai.org

★『先輩に学ぶ』講師を募集

昔々、私たちが高校生だった頃、自身の進路が明確に描けたでしょうか？バブル崩壊後に生まれた母校の後輩たちは閉塞感が漂う時代の中で、私たちより進路選択に思い悩んでいるかもしれません。そんな彼らに、同窓の先輩がご自身の貴重な体験を語っていただくことで、後輩たちがささやかな（時に大きな）ヒントを得てくれるに違いない！そう確信し、『先輩に学ぶ』（NHK番組“ようこそ先輩”をイメージしてください）を企画・実施してまいりました。既に多くの先輩が母校で後輩たちに語って下さいました。「人は誰でも一生のうちに、その人にしか書けない1冊の本を書くことができる」といわれます。自薦・他薦ともに受け付けます。後輩たちのために語ってくださる先輩を募集いたします。『先輩に学ぶ』は平日に実施。受講対象者は高校3年生になる直前の高校2年生です。質疑応答などを含めて約1時間ちょっとの時間内で卒業後の人生を、あるいはその一断面を凝縮してお話し下さい。応募をお待ちしております。 ⇒連絡先：井上 務
【携帯】090-1839-0363 【メール】jigyo@akanekai.org

★後輩支援の先輩も募集中

例えば、スポーツクラブの指導を補助してくださる方、理系クラブに専門知識を活かしてくださる先輩、後輩たちが学校の外に出て学習するフィールドワークで各地（八王子周辺）を訪れる際のリエイターアシスタントとして、職場体験に出掛ける後輩たちの受け入れ先になってくださる方などを募集しております。

里山体験にご自宅周辺を開放してくださった方や税理士事務所を職場体験場所としてご提供いただいた例などがあります。後輩たちのために「私だったらこんなことができます」とのご提案も受け付けたいと思います。先輩の皆様からの連絡をお待ちしております。 ⇒連絡先：井上 務
【携帯】090-1839-0363 【メール】jigyo@akanekai.org

★高尾山納涼会（8月18日予定）の参加者を募集

毎年8月の旧盆過ぎに、下界の熱暑を逃れて精進料理で暑さ負けを解消しようと、高尾山薬王院で「納涼会」を開催しています。元気な方は早めに来て山歩きに挑戦し、山頂で富士山や都内の景色を眺め、ひと休みしてから「精進料理」の昼餉に向かいます。参加をご希望の方は7月に掲示するホームページを見てお申し込みください。集合は10:00（ケーブル清滝駅）、会費5,000円を予定 ⇒連絡先：田中ミホ
【電話】042-646-1155 【メール】event@akanekai.org

★母校文化祭（9月8・9日）の出展作品を募集

100周年事業を契機に、母校文化祭に参加して今年は8回目を迎えます。平成22年から卒業生の作品展とアトラクションを始めました。「会員による会員のための催し」ですが、中等生や一般客で賑わいを見せ、「あかね会クイズ」では卒業生が生徒に母校の歴史を語る交流も広がっています。

書道、絵画、写真、陶芸その他趣味活動で作品を制作されている方、著作物（本・写真集・画集など）を発行している方は奮ってご出品ください。得意芸のある方は、アトラクションにもご参加ください。出展準備と片付けのボランティアも募集します。ぜひ情報をお寄せください。 ⇒連絡先：田中 ミホ
【電話】042-646-1155 【メール】event@akanekai.org

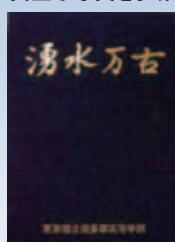
感動ギッシリ！100周年記念誌『湧水万古』のご購読を

今、中等生と高校生の元気な声が溢れている母校。若き後輩たちの今後を想像するとワクワクします。母校は次の100年に向けて新たな出発をいたしました。100年前、中等生が入学してくる母校を誰が想像したでしょう！

記念誌『湧水万古』を開くと、「歴史を知ると未来が見える」を実感します。中等生が母校に集ってきた必然が見えてくると同時に、混迷の時代を開くヒントが見つかるかもしれません。「何度も手にしたくなる感動満載の…」、まさに100年に1冊の貴重な記念誌。ご一読を！

◆B5判◆1色刷(一部カラー) 456頁◆ハードケース付◆永久保存版◆
2008年11月刊◆内容：現在の母校／南高100年の貴重な写真を多数
掲載／誌上タイムカプセルー今を未来に伝達
価格：3,500円(送料含)

《お求め方法》メールか電話で住所・氏名・電話・
卒業年・組を連絡の上、お申し込みください。
折り返し記念誌を発送しますので、同封の郵便
振替用紙で代金の3,500円をお振り込みください。
⇒申込先：【電話】0428-33-4820 加藤
【メール】kinenshi@akanekai.org 田辺



| | |
|--|---|
| <p>有機バナナのパイオニア ナチュラルヒーロー®</p>   <p>HIRO INTERNATIONAL 株式会社 ヒロインターナショナル 代表取締役 神 藤 宏 昭(昭和35年卒) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-16-5 (マニュライフプレイス渋谷3F) 電話: 03-3406-1091 FAX: 03-3406-1203 http://www.naturalhero.co.jp</p> | <p>南多摩高校出身の演歌歌手「伊達めぐみ」</p>  <p>(有)オフィスめぐみ 代表 伊達 めぐみ (平成3年卒) ☆イベント企画承ります 〒192-0041 八王子市中野上町5-14-1 TEL: 042-622-9932/FAX: 042-627-6678 http://date-megumi.net/ 新曲「よっしゃよっしゃ! ソーランおんな節」「☆(ほし)の舞」発売!!</p> |
| <p>医療法人社団 大島会</p> <p>大島耳鼻咽喉科クリニック</p> <p>院長 大島 清史／大島 富子(昭和25年卒)</p> <p>〒192-0046 八王子市明神町 4-5-9 TEL : 042-642-8012 http://www.oshima-ent.com/</p> | <p>東京都知事認可 第 76262号 地耐力試験・裁可試験・土質試験・深井戸・ポンプ工事・倉庫・駐車場・ボーリング</p> <p>石田産業有限会社</p> <p>代表取締役社長 石田 高章 常務取締役 石田 菊江(昭和27年卒)</p> <p>〒190-0013 東京都立川市富士見町 2-32-27 石田産業ビル TEL : 042-522-2406 FAX: 042-525-0483</p> |
| <p>初診隨時受付 AM 9:30～PM 7:00 診療時間</p> <p>糠信歯科医院</p> <p>院長 糠信 安宏(南多摩高校歯科医) 糠信 和代(昭和29年卒)</p> <p>八王子市明神町 4-2-9 鼎ハイツ2F(京王八王子駅西口出口前) 電話: 042-642-3131 [休診日:木曜・日曜・祝祭日]</p> | <p>医療法人社団 真歯会</p> <p>常盤矯正歯科医院</p> <p>理事長:常盤 肇 理事:常盤 正臣(昭和31年卒)</p> <p>〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-3-22 安藤ビル 5F 電話: 03-5363-1182 FAX: 03-5363-1173 フリーダイヤル: 0120-755-182 http://www.tokiwaoc.com</p> |
| <p>医療法人社団 三真会</p> <p>勝田医院</p> <p>泌尿器科・内科・外科</p> <p>院長 勝田 真行／勝田 三枝子(昭和33年卒)</p> <p>〒193-0803 八王子市檜原町 556-1 電話: 042(625)2727 FAX: 042(625)2700 [休診日: 日・祝、木・土の午後]</p> | <p>高級オリジナルニット</p> <p>色彩の魔術師</p> <p>斎藤都世子作品ルーム</p> <p>◇ 八王子・浅野サロン ◇</p> <p>きもの浅野 浅野 常子 (昭和34年卒) 〒192-0904 八王子市子安町 3-32-10-106 FAX: 042(646)9833 / 090-1422-1192</p> |
| <p>「カラオケ」と「うたごえ」を楽しく!</p> <p>駅長 半澤 邦彦 (昭和37年卒)</p> <p>〒193-0844 八王子市高尾町 1595-3-101(JR 高尾駅北口 3分) TEL: 042-664-6555 営業時間: 昼 12:00～午後 11:00 http://www.utanoeki.co.jp</p> | <p>ISO 取得事務所</p> <p>税理士法人 西東京会計</p> <p>代表社員・税理士 加藤 晃(昭和38年卒)</p> <p>事務所: 〒192-0032 八王子市石川町 733-4 TEL: 042-644-1771 FAX: 042-645-7372 http://www.tkcnf.com/ntk/</p> |
| <p>一級建築士事務所</p> <p>株式会社 浜中企画</p> <p>代表取締役 浜中 賢司(昭和44年卒)</p> <p>〒193-0801 八王子市川口町 3411 電話: 042(654)4325 FAX: 042(654)6128 mail:hamanaka@tokyo.email.ne.jp</p> |  <p>なかの幼稚園 そこは 子どもの世界です。</p> <p>〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13 TEL: 042-622-3001 FAX: 042-624-3103 http://www.nakano-kd.ed.jp/ 理事長 中村 健(昭和46年卒)</p> |



刷新ing

お任せ下さい！印刷のすべて。

取締役副社長 野口 富巳子（昭和35年卒）

有限会社 三公社

〒192-0041 東京都八王子市中野上町2-29-1
TEL. (042) 625-8325 FAX. (042) 625-8369
<http://www.san-p.co.jp>



薬王院 山主 大山 隆玄(昭和28年卒)
<http://www.takaosan.or.jp>

有限会社 保寿産業

代表取締役 小川 権子(旧姓岸 昭和31年卒)
〒190-0023 立川市柴崎町1-9-32
TEL:042-526-2646 FAX:042-529-7500

病院、施設の給食専門問屋



代表取締役 増田太郎／増田敦子(昭和34年卒)
〒193-0801 八王子市川口町 3726-2
TEL:042-654-2222 FAX:042-654-5049
<http://www.masudaya.1965.com>

同窓生の皆さん、お気軽にご相談ください

弁護士 森 保 彦(昭和38年卒)
森・森法律事務所
〒160-0004 東京都新宿区四谷2-8
コー ポ・クローバー駒井 504号
TEL:03-3355-4021 FAX:03-3355-4022

ガーデンアイランド北海道！大森農場にもお越しを！

大森農場カントリーガーデン

取締役社長 大森 康雄・敬子(昭和47年卒)

6月2日～10月8日 北海道ガーデンショー開催(千年の森にて)
大森ガーデンにもお立ち寄りください[月曜休み・祝日と重なる場合翌日休み]
〒089-2446 北海道広尾郡広尾町紋別 14-73
TEL:01558-5-2421 FAX:01558-5-2647
<http://homepage2.nifty.com/omorigarden/>



新藤矯正歯科クリニック

〒192-0081 東京都八王子市横山町 23-2

TEL:042-646-3686

<http://www.shindo-ortho.com>

明るい未来を拓く、元気な子供達を育てます。

社会福祉法人 相友会

浅川 誠 諏訪のぞみ乳児園

理事長 村松 一恵(昭和28年卒)

法人本部 〒193-0812 八王子市諏訪町5 TEL:042-651-4555

伊藤税務会計事務所

税理士 伊藤 仁教

伊藤 幸子(旧姓菱山・昭和32年卒)

〒192-0045 八王子市大和田町3-6-21

TEL:(042)642-2719 FAX:(042)642-5034

ダンスウェア・シユーズ

(ソシアルダンス・フォークダンス・バレエ)

チャット八王子

店長 粕谷 和子(昭和35年卒)

〒192-0085 八王子市中町 12-8

TEL・FAX:042-626-1255

[定休日:水・日曜 営業時間:12:00～17:00]

電気製品の販売と修理いたします。

ラビット・サイトー

斎藤 加代子(昭和42年卒)

〒192-0032 八王子市石川町 2965-6

電話:042-645-8315 FAX:042-645-2161

法あるところに救済あり！

司法書士・行政書士 そらい 空衣事務所

みなさまとお会いしたいと思っています

代表 入沢 修自(平成5年卒)

〒206-0011 東京都多摩市関戸 4-23-1 (関戸ビル 301)

電話:042-389-5570 Fax:042-389-0755

<http://www.sorai-law.com>

同窓会「あかね会」は結成100年を迎えました

卒業生、旧教職員をはじめ会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

5月第3日曜日は「あかね会総会」の日であり、今年は『100周年記念総会』です。ぜひ、ご友人やお仲間と一緒にお越しいただけませんか。

本年は右記のとおり、母校近くの会場で、総会に引き続き会費制による祝賀会を開催いたします。会場の都合で定員は120人とさせていただきますので、出席を希望される皆様は、お早目にお申し込みください。

平成22年4月から、南多摩高校に南多摩中等教育学校が併設され、競争倍率の高い中高一貫校は3年目を迎えました。母校も様変わりしていますが、第四高女や南多摩高校の学生時代を思い起こして、お仲間や先輩との旧交をあたためる機会としていただければ幸いです。

同窓会総会は、こうした再会や出会いを提供する場でもあります。総会の終了後に同期会などを企画される学年もあると思いますが、同級生の仲間と誘い合って、また母校見学なども兼ね、ぜひお集まりください。



会場のハ王子プラザホテル・
ダイヤモンドの間

あかね会100周年記念総会

●日時：平成24年5月20日(日) 午前11時～午後3時

●場所：八王子プラザホテル ダイヤモンドの間

京王八王子駅前 ☎ 042-646-0111

●定時総会：午前11時～

23年度事業・決算報告、24年度計画・予算案 他

●講演会：正午～

演題：「忘れられない恩師の教え

—動物たちから学んだこと—

講師：小宮 輝之 氏 前上野動物園園長

公益財団法人 東京都動物園協会 常務理事

最新著書「鳥あそび」(二見書房)

「物語 上野動物園の歴史」(中公新書) ほか

2011年11月 NHK TV「プラタモリ」に出演

●祝賀会：午後1時～

懇親・懇談、新会員の歓迎・紹介、

会員による歌・日舞、会員インタビュー など

●定員：120人(定員になり次第締め切ります)

●会費：5,000円(事前振込制)

●参加申込：下記の郵便局口座に会費を振り込んでください。定員超過の際は、お断りすることがあります。

申込期限は4月20日(金)まで

●振込口座：ゆうちょ銀行・総合口座 店番008

記号10040 番号16380211 名義 オオツカ ミツヨ

本人名義の「ゆうちょ銀行」キャッシュカード・通帳で、ゆうちょATMをご利用になれば、電信振替の手数料は無料です。ゆうちょ銀行窓口扱い(140円)、電信払込み(525円)、他の金融機関からの振込み(現金630円、ATM420円)は有料ですので、郵便局の電信振替ATMをご利用ください。)

(注)：同封の振込票は「広報協力金」用ですので、これで会費の5,000円は振込みできません。

●参加案内：4月下旬に参加者に郵送します。

●お問合せ先：【携帯】090-6489-5939 溝口 猛

「広報協力金」のご協賛、よろしくお願ひします

本年も、あかね会広報紙「みなみたま」第3号を、お届けできる運びとなりました。第1・2号の発行にあたり、会員の皆様から御礼や発行継続のご要望を数多くいただき、同窓会としても感謝しております。

また、発行にあたり有志の方にお願いしました「広報協力金」も、第1号が約600人、第2号も500人以上の方から、それぞれ約200万円ものご協力をいただき、本年第3号の発行につながりました。ひとえに母校に熱い思いを寄せ、後輩生徒に幸有らんと祈る有志の皆様の善意のたまものと、心から感謝申し上げます。

誠に恐縮ですが、本年も会員の皆様に「広報協力金」をお願いすることとなりました。1口千円のご協力をいただければ幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。

ご入金は同封の振込用紙により、郵便局からお願ひします。ご協力いただきました皆様のご芳名は、後日、あかね会ホームページに掲載させていただく予定です。なお、振込用紙の通信欄には、ご感想やご意見などをお寄せください。

住所や会員情報を変更の際には、ハガキかホームページ「お問合せ・連絡フォーム」からお知らせください。

【編集後記】 南多摩高校同窓会は、第四高女の卒業生が明治44年11月に設立してから100年目を迎えました。そこで本号は記念号として、同窓会あかね会の特集記事や100年一覧年表を企画し、お手許にお届けすることになりました。今回、取材をする中で、母校が戦前に日本一の水泳王国を築いた話や、母校が空襲で灰燼に帰した話などを間近に聞くにつけて、先輩たちの努力や苦労が伝わってきました。その輝かしい伝統を誇る南多摩高校も、3年後に閉校になります。しかし、「南多摩」という校名は、これからも南多摩中等教育学校に引き継がれていきます。同窓会も伝統の灯を永く後世に伝えていくために、皆様にご支援とご協力をお願いする次第です。なお、あかね会ホームページ『南多摩コミュニティ』もあわせてご利用ください。会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。(広報委員・新垣)